

23 ^{あらこも め}粗衣を縫ったマリアさま

(大英博物館蔵 古代オリエント稿本 No.652 二つ折本9所収の古代エチオピア語版に基づく)

ファイリーに一人の司祭さまがおられました

うまくしゃべれず からだも弱ったお年寄りの司祭さまでした
できることといえば

毎日かかさずマリアさまにお祈りすること

^{もうろく} 毫碌してほかのことはできず

5

口ごもるので 何を言っているのかよく聞き取れません
処女であり聖母であるマリアさまに祈る声は
それはそれは大きく澄み渡っておりました

司祭さまはもうお年だからと

10

村の人たちはばかにしました
そこで あの方はもうおつとめができませんと
司教様につげ口しました

(パンが^{きよ}聖い体へと変えられる

聖餐式でのおつとめはもうできません

ああ 絵の中のマリアさまの前で

15

司祭さまが御子にお仕えすることはもうできません)

司教様は やさしくかしこいお方でした

司祭さまにこうおっしゃいました

「^{じょうぶ}丈夫になるまでがまんしなさい

しばらくわたしのところにいなさい

20

ほんの少し がまんして待ちなさい

イエスさまがあなたの舌をもつれないようにして下さるでしょう
そうすれば 礼拝のおつとめもできるでしょう
わたしたちが若かったときのように

司祭さまは黙って そのとおりにしました

25

司祭さまは司教様の前をおいとましました

ただひとり砂漠をとぼとぼ歩きました
司祭さまが嘆いている姿を誰にも見られないように
(赤いブドウ酒が聖^{きよ}い血へと変えられる
聖餐式でのおつとめはもうできません 30
ああ 絵の中のマリアさまの前で
司祭さまが御子にお仕えすることはもうできません)

司教様は聖^{きよ}く偽りなく
規律正しいお方でした
昼は お祈りと断食にはげみ 35
夜は 苦行と寝ずのお祈りをしました

このような熱心なお祈りで思いついたのは
自分の苦行をさらにきびしいものにする
肌を刺す粗^{あら}衣^{ころも}を
ローブの下に身につけることでした 40

司教様はひそかに粗い麻布を集めました
さすが司教様とほめ讃えられることがないように
大きな裁ちばさみ 掌を守る革 丈夫なひもを
あちらこちらから集めました

しかし司教様は裁縫^{さいほう}がまるきりできません 45
失敗しては 苛立つばかり
すると一人の女の人が司教様の前に現れ
お母さんのようににっこり笑いかけました

女の人の両足は砂漠の熱い砂でやけどを負っていました
砂漠に住む人々のように歩いたからです 50
処女であり 聖女である
マリアさまであるにもかかわらず

女の人は裁ち^たばさみと 麻布と
針と丈夫なひもを手にとり
布を裁ち^た 形を整え 縫い合わせ 55
「この粗^{あら}衣^{ころも}に神の祝福を」とおっしゃいました

女の人はかげろうのゆれる

熱い真昼に帰ってゆきました
司教様は目を見ひらいて驚きました
そして突^つ伏してお祈りしました 60

場面かわって かぐわしい香炉から遠くはなれたところ
讚美歌がひびきわたる教会から遠くはなれたところ
司祭さまが毎日見つめていた
マリアさまの絵姿から遠くはなれたところ

ファイリーからはなれた砂漠で 65
あのお年寄りの司祭さまがひとり歩いていました
するとラクダの群れの先頭にいらっしゃる
砂漠でお生まれになった女王さまを見たのです

女王さまは高いラクダの背中にゆられていました 70
ああ 見るも美しいそのおすがた
ラクダは銀の鈴で飾られ
女王さまのベールは金で飾られていました

女王さまはお輿^{こし}から身をかがめ
司祭さまの耳にそっとささやかれました
「そう わたしはあなたの悲しみをずっと見てきました 75
でもその悲しみももうすぐおわることでしょう

「また礼拝でおつとめしなさい
その舌でなめらかに神をたたえなさい
あなたを見守り続ける
マリアを讃えて歌いなさい 80

「安心して司教様のところへ行きなさい
わたしからのことづてをもってお行きなさい
あの粗^{あらこも}衣を縫った女が願っていると
司教様があなたを救ってくれることを」

(榊井幹生訳)